

人むすびの場

第23回テーマ

“グリーン・ツーリズムの新たな展開を考える”

日時	平成22年5月27日(木) 午後7時～9時
会場	スペースU
企画運営	“人むすびの場”づくり企画運営チーム

人むすびの場”をともに創りませんか？

- 「むすひ(産霊)」とは、ものを生み出す力のことを表す古語です。場には、不思議な力が宿ります。何かが生まれ行くエネルギーに満ちています。
- “人むすびの場”は、人と人の思い、能力・スキルを結び合わせ、創発のパワーを発揮して、新しい共生(ともいき)の世界を切り拓いていく、つながりづくりの場を意図しています。
- 私たちの世界は、「人と自然」「人と人」のつながりが薄くなり、様々な問題を抱えています。でも世の中には人財、知恵もそこかしこにあり、結び合うことで問題解決のパワーも生まれてくるに違いありません。
- そのため、お互いの思いと知恵を分かち合う対話と創発の場をご一緒に創っていきませんか？
- 場を活かし、つながりを創り、行動していきたい！ こんな思いをつなぎ、今まで自分のやりたかったことに、さらに発展的に取り組むきっかけづくりにしていただけたらと思います。
- “人むすびの場”を、単なる勉強会や異業種交流会とは考えません。「生きがい」とか「やりがい」とは何か、ちょっとしたことから世の中がよくなったら嬉しい・・・このような思いを分かち合うことから、何かが変わることを信じている人々の集まりにしたいと思います。
- 「人むすびの場づくり企画運営チーム」へも是非ご参画ください。
- 新しいアイデア・企画の提供など、もろもろご意見をお待ちします。



プログラム

- 19:00 ◆オリエンテーション 人むすびの場とは
“人むすびの場”づくり企画運営チーム 高重 和枝
- 19:05 ◆スピーチ
「グリーン・ツーリズムの新たな展開を考える」
茅原 裕昭さん(ちはら ひろあきさん)
((財)都市農山漁村交流活性化機構(愛称:まちむら交流きこう)
グリーン・ツーリズムセンター長)
- 19:50 ◆人むすびカフェ
ファシリテーター 角田 知行さん
- 20:55 ◆本日のまとめ
21:00 終了
交流会(うさぎ)



「グリーン・ツーリズムの新たな展開を考える」

ゲストスピーカー 茅原 裕昭さん(ちはら ひろあきさん)
((財)都市農山漁村交流活性化機構(愛称:まちむら交流きこう))

ツーリズムはあくまでもぎゅらかけ。その先、都市と農村
でどうするのかの視点が重要！

- グリーン・ツーリズムは「農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動」。
- 平成4年、農水省が農村の定住整備の政策として公表。農山漁村に住む人々と都市に住む人々との心のふれあい、つまり都市と農山漁村との住民どうしの交流であることがこれまでの農村観光とは大きく異なっている。
- ヨーロッパでは農村に滞在しバカンスを過ごすという余暇の過ごし方が普及している。サステナブルツーリズム、ファーマーズ・マーケット、アメリカの自然学校など。日本では、1950年後半からスキー民宿があり、それがグリーン・ツーリズムに発展してきた。農家が観光協会とタイアップした観光農園が65年以降増えた。他に、テニス合宿、山村留学、農業体験修学旅行など。
- (財)日本交通公社の『旅行者動向2008』から2005年と2007年調査の比較によると、近年、若者を中心にグリーン・ツーリズムへの関心が高まっている。2007年調査では4割強の人が「行ってみたい」と回答。20代の参加意向が47.2%と高くなっている。
- 現代の若者が“農”に対して、新鮮なイメージを抱いており、魅力的な対象として捉えている。
- 小学生から高校生の若者が、数日農家に泊まっただけなのに、お世話になった農家のお父さんお母さんとの別れに涙を流すような「感動体験」(涙の別れ現象)があり、農村のもつ教育効果は極めて高く深く、農家の人も幸せになれる。
- 認知度が低い一番の課題は、受け皿が育っていないこと。農山漁村にはグリーン・ツーリズム商品を企画、営業、マネジメントする人材が不足(コミュニティビジネスの担い手)しているが、活性化している地域はUIターン若者や団塊世代の退職者がノウハウ、ネットワークを利用して事業を展開している例が少なくない。
- 今後の普及への可能性は、地域の中に企画コーディネートできる人材がいて商品開発し、インターネットや他組織、自然学校、企業のCSRと連携するなどの手段を講じて集客していくことで広がりや効果をもたらすことができると考えている。

【茅原 裕昭さん 経歴紹介】

農山漁村地域の活性化と心の豊かさを求める都市生活者のライフスタイル実現という2つの目的を達成するために、農林漁業、自然や農村生活の体験を楽しむグリーン・ツーリズム(GT)を推進している。

2009年からは、気軽に農村体験を楽しむための旅行商品の開発支援と普及のためにGT商品コンテストを中心とした「ようこそ！農村へ」キャンペーンを展開。

また、GT、田舎暮らし、都市と農村を1週間から数ヶ月滞在、行き来する二地域居などの都市と農村の往来を促進するための国民運動「オーライ！ニッポン会議」の事務局を担当している。

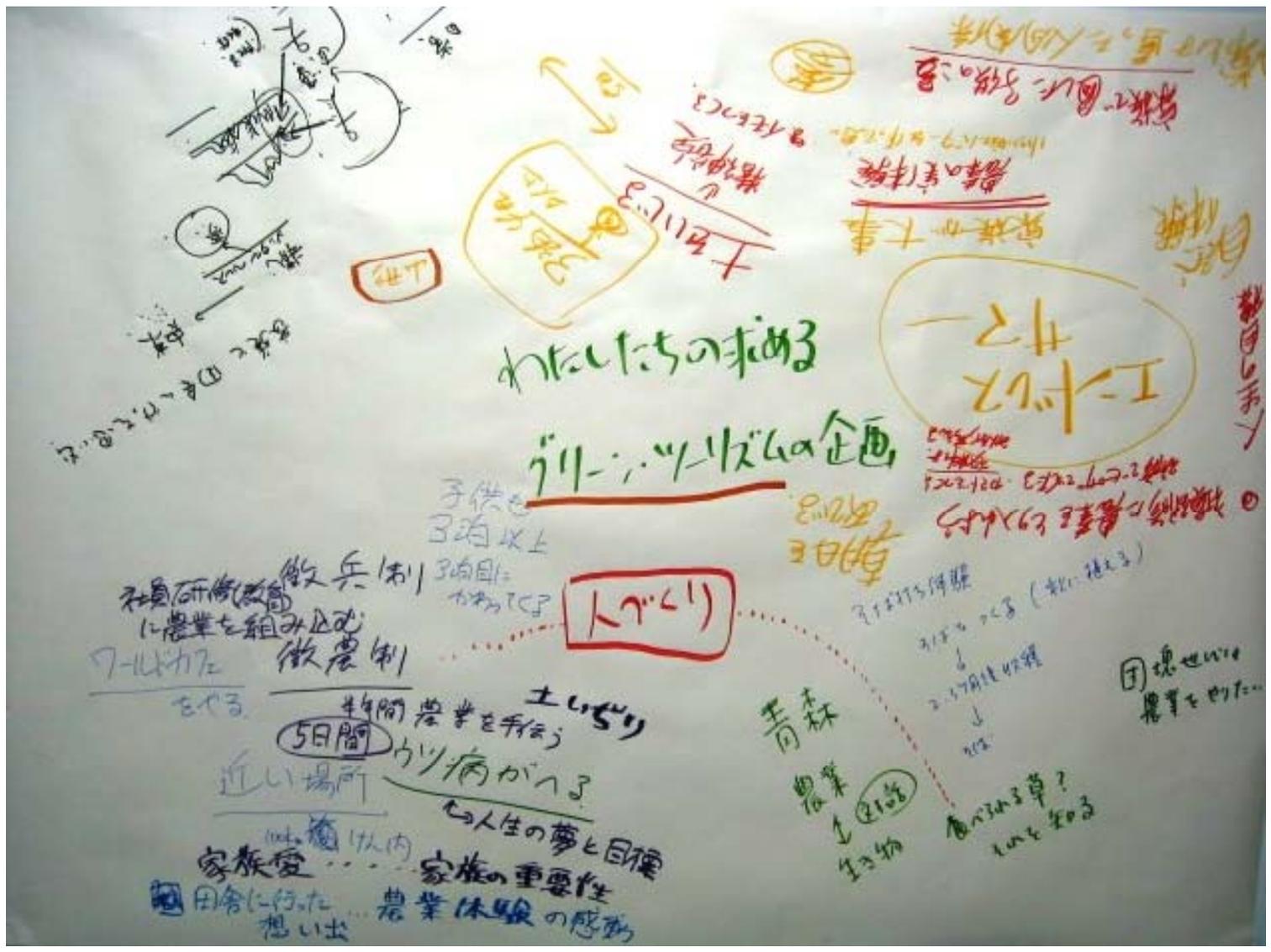


フォトギャラリー



人むすびカフェ

「わたしたちの求めるグリーン・ツーリズムの企画」



本日の感想①

* 今日、どんな気づきがありましたか？

- ・自然を対象としていて、自然の中に居る感覚を伺えなかった。みんな都会人
- ・ツーリズムはあくまでもきっかけであり、その先にどうするのかの視点が重要
- ・グリーン・ツーリズム → 日常の農業体験とは違う → 2ヶ所に住むふるさと
→ 日常とは違う人間関係
- ・グリーン・ツーリズムとメンタルヘルス対策がうまく組み合わせれば、新しい社会、人間関係が生み出せる
- ・グリーン・ツーリズムは、人と人の交流(アイデアを売る)ところからはじまるとの感想を持った
- ・グリーン・ツーリズムには横断的な施策が必要な深い問題をかかえていること
- ・グリーン・ツーリズム概念の多様性
- ・子供も3泊以上で成果が出る「涙の別れ現象」
農業体験は感動 徴農制
- ・課題から考えるのではなく(－)、都会の人、農山村の人が満足することは何か、という
+(プラス)の方から考えていくこと
- ・1/365×365で年中
- ・グリーン・ツーリズム普及の課題は地域での企画者が少ないこと、PR(集客)
- ・五感体験ツアーが必要だ。テーマが出て考えが整理されていきました。

本日の感想②

* 一番、印象に残ったこと(キーワード)はどんなことでしたか？

- ・自己の興味から動くには、という出発点
- ・商品というのは何を売りたいかがはっきりしていることが第一
- ・①精神安定 ②家族 ③自分のためのグリーン・ツーリズム的マンションで畑を
地方に
- ・徴農制 うつ病(精神病)対策
- ・対話(人どうしの対話が基本) 地域ー都市
- ・「地域資源」は人によって、時代によって意味合いが変わってくる
- ・都市と都市でない地域に居住する人
- ・思い出は人をつくる
- ・第二のふるさと
- ・1950年代くらいからグリーン・ツーリズム
- ・生き物としての能力を取り戻そう！

本日の感想③

* その他、よかったこと、残念だったこと、質問など、ご自由に。

- ・単にグリーン・ツーリズムということにだけでなく、地域のことを考えている人がいることは大切だと思う。
- ・このテーマ、どんどん広がりいくら時間があっても足りない。テーマをどうしぼるか課題になる
- ・議論する時間がもう少し欲しかった
- ・ファシリテーターは各グループにいるとより議論がまとまると感じました
- ・都市に住む人の考え方の限界があるのかなあと思った
- ・時間不足でした
- ・その地域を「どう売るのが」の視点から深耕できなかったこと
- ・何とは言えませんが、すごく参考になりました
- ・価値観の多様化 相対性

皆さん、一緒に場をつくってくださってありがとうございました。